

お薬と血球成分の関係

～今日の検査値、確認しましたか？～

お薬は適切な量を使用することで病気を改善する（効果）一方で、好ましくない影響（副作用）を及ぼすことがあります。血液検査により、適切な量の確認や好ましくない影響をいち早く察知することができますので処方せんと検査値を合わせてお出してください。

今回は血液検査の中で、血球成分の見方と薬の影響について解説します。

〈代表的な血球成分：白血球・ヘモグロビン・血小板ってなあに？〉

- 白血球、赤血球（ヘモグロビン）、血小板は血液に含まれる成分です。
 - 白血球（WBC）：菌などの病原体と戦って体を守ります。
 - ヘモグロビン（Hb）：体の隅々に酸素を運搬します。
 - 血小板（PLT）：血液を固まらせて出血を防ぐよう働いています。



〈白血球・ヘモグロビン・血小板が減ると、どうなるの？〉

- 血球が減ることによってそれぞれの働きが損なわれるので、抵抗力の低下による感染症（白血球減少）、貧血（ヘモグロビン低下）、出血（血小板減少）の危険性が高くなります。
※個人によって減少の度合いや影響は異なります。



主な症状：（白血球）発熱、咳など



（ヘモグロビン）めまい、息切れなど



（血小板）内出血、鼻血、歯ぐきからの出血など

〈どんなお薬で血球成分が減る事がありますか？〉

- 抗癌剤、抗リウマチ薬、免疫抑制剤、抗菌薬など



〈どんなこと（症状）に注意したら良いの？〉

- 血球が減少しても、はじめは自覚症状がない事が一般的です。血液検査結果を定期的に観察することで値の変化をいち早く察知することが大切です。血液検査をされましたら、処方内容と合わせて薬剤師にご相談ください。
- 風邪のような症状（発熱、寒気、だるさなど）、貧血の様な症状（ふらつき、息切れなど）、出血（鼻血、歯肉からの出血など）のように、体に異変を感じた場合には、すぐに医療機関に申し出るようにしてください。

〈参考〉重篤副採用疾患別対応マニュアル 第1集、発行(財)日本医薬情報センター(JAPIC)・発行協力(社)日本病院薬剤師会

監修：新宿区薬剤師連携協議会

作成日：2019年5月（初版）